

令和 6 年度事業計画について

令和 5 年度に実施した取組を充実・強化させるとともに、文化をあらゆる分野に活かした取組を検討するため、以下の事業を展開。

< 個別プロジェクトの検討 >

令和 5 年度に実施した「文化観光」「食文化」をテーマとしたワーキングやシンポジウム等による意見交換や事例検討を踏まえた取組などを、令和 6 年度は各団体がもつ課題や検討事項を任意の団体による個別プロジェクトとして形成することで、モデル事業の実施や文化庁との連携等を推進する。また、京都の持っている文化の魅力について、有識者等が集まり、日本文化の魅力が京都から発信していくことをプロジェクト形式により検討。

(個別プロジェクト (案))

□文化観光

令和 5 年度の文化観光ワーキングの成果を踏まえ、京都府内のエリアにおいて、文化庁の補助制度の活用も視野に、全国のモデルとなる高付加価値な文化観光プランの造成を検討。

□食文化

令和 5 年度の食文化ワーキングの成果を踏まえ、登録無形文化財や 100 年フード・食文化ミュージアム等を活かした京都ならではの食文化振興を検討。

□生活文化

日頃から文化に親しむことのできる環境を充実させるため、長い歴史の中で育まれた茶道や華道等を通じた生活文化の体験機会の創出を検討。

□府内文化施設による地域活性化プロジェクト

大阪・関西万博開催年に合わせ、共通テーマのもとで各施設(館)が展覧会等を開催し、一体的な広報展開をおこなうことで、より多くの方に各施設を知っていただくとともに、展示等を通じて京都の文化の魅力が発信。

□音楽普及プロジェクト

府内全域で音楽(文化)に触れる機会を創出するため、気軽に上質な音楽を鑑賞できる機会や子ども向け音楽体験や楽器体験等の機会を創出。

< 文化庁との意見交換会の実施に向けた検討 >

予算概要や事業実施予定等における情報共有等の定期的な意見交換により、双方のニーズ把握や新たな施策立案に活かすため、文化庁との意見交換の実施に向けた検討を行う。

< 広報発信 >

プラットフォームとして立ち上げた HP や SNS を活用し、文化イベント等の日本文化の魅力発信を行うほか、府内各地に設置しているデジタルサイネージを活用した地域文化の PR を実施。

< 収支計画(案) >

令和 6 年度の収支予算については、共同代表からの負担金及び令和 5 年度の繰越金により、広報発信等の上記事業を実施。